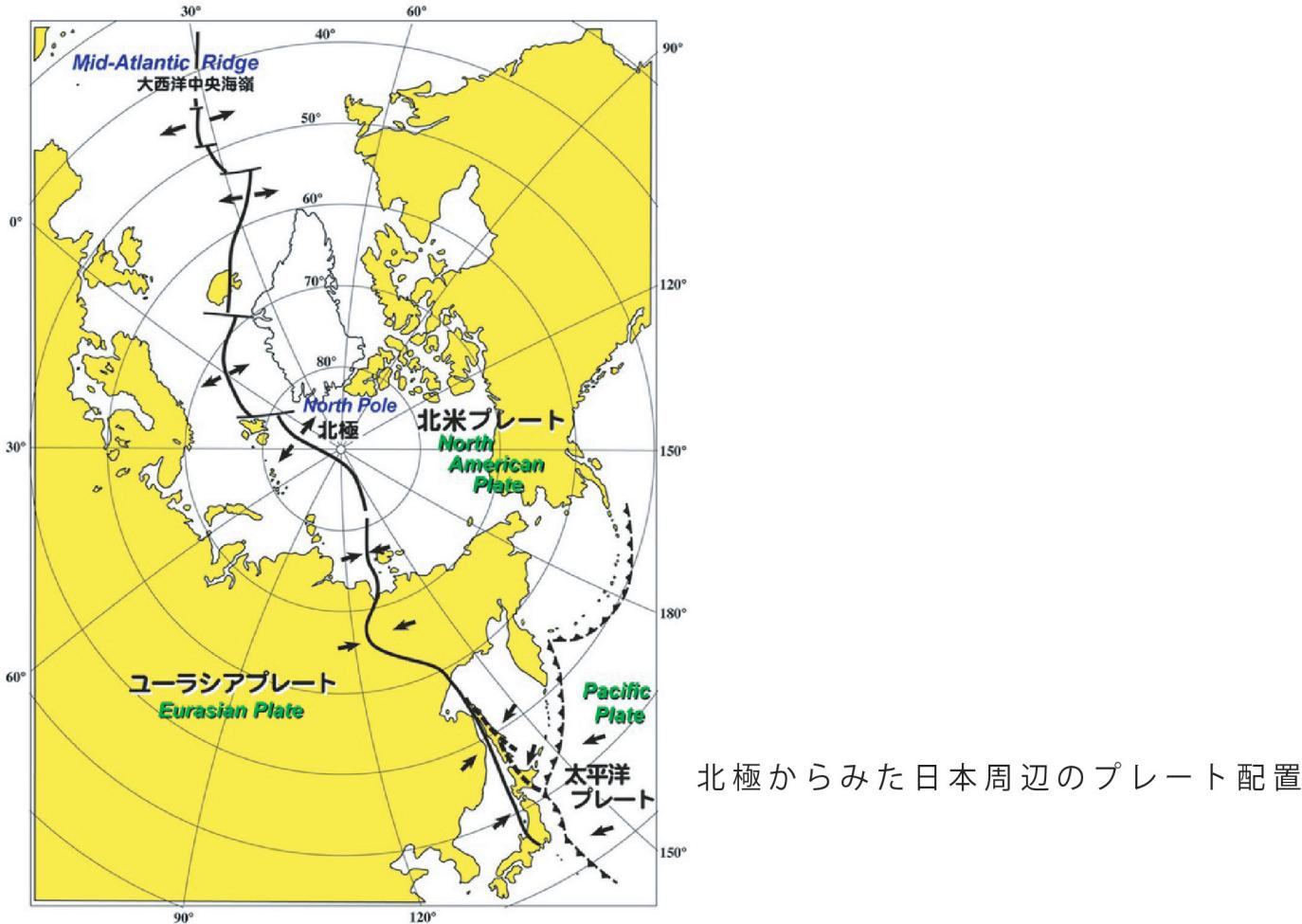




変動する地球：日本海東縁変動帯

－迫り来る巨大地震に備える－

日本海東縁変動帯は最近著しく活発化しており、大地震発生の頻度が高まっています。この変動帯に関する解説と迫り来る地震への備えについて紹介します



講 師 / 宮下純夫（北海道総合地質学研究センター）

北海道江別市出身、北海道大学理学部卒業、理学博士、新潟大学名誉教授、元日本地質学会会長。
北海道をはじめ世界中の現在及び過去の海洋地殻の研究に従事

日 時 / 2022年10月15日(土)13:30-15:30 (13:15 開場)

会 場 / かでる 2.7 北海道立道民活動センター(札幌市中央区北2条西7丁目 1050会議室)

参加費 / 1,000円（高校生は半額） 参加定員 / 35名

申込期限 / 2022年10月12日(参加定員まで余裕があれば前日まで受け付けます)

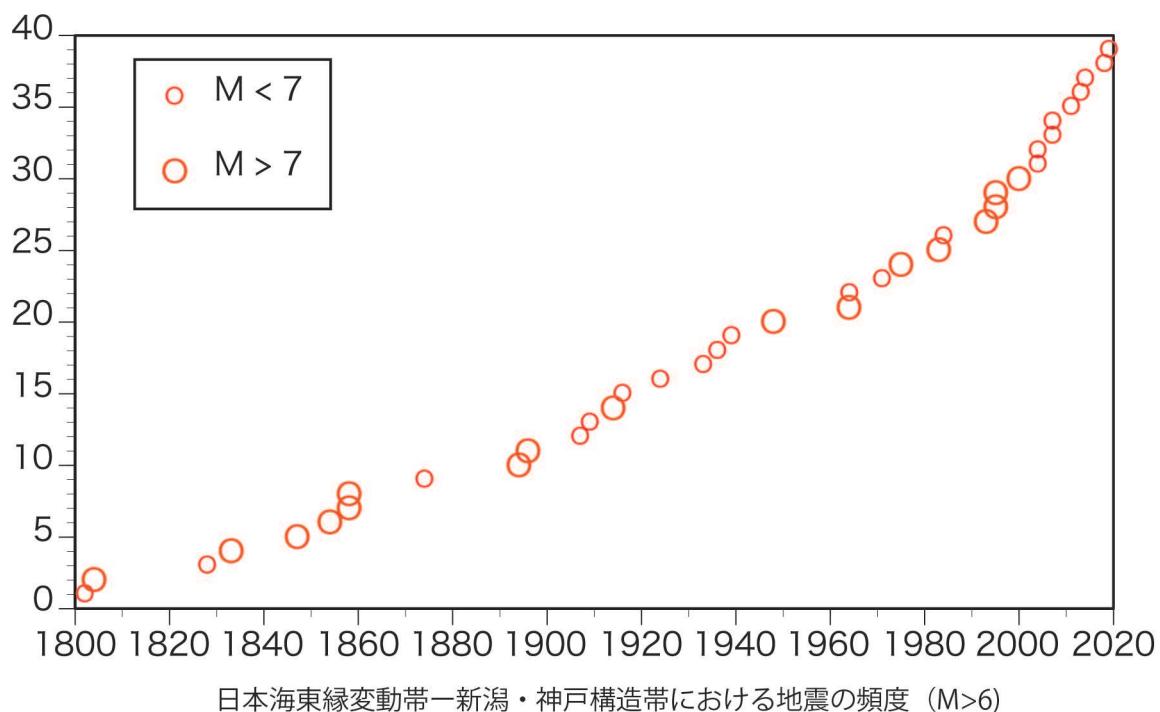
参加申込・問合せ先 / E-Mail: office@hrcg.jp Tel: 080-5830-2016

主 催 / NPO法人 北海道総合地質学研究センター (HRCG) (<http://www.hrcg.jp/>)

新型コロナ感染防止のため、当日はマスク着用をお願いします。会場は比較的広い場所を用意しています

講義の概要

3. 11 東日本大震災は巨大な被害をもたらし、いまだに大きな傷跡を残しています。この震災から何を私たちは学んだのか、それ以前の地震研究も振り返り教訓をまず考えてみます。一方、日本海東縁にはサハリン北部から新潟・神戸構造帯につながる大変動帯が走っています。私が新潟大学に在籍していた2004年には中越地震が発生しました。この地震は日本海東縁変動帯の活動によるもので、この地震では震源から離れた場所でも大きな被害が出ました。胆振東部地震においても同様な例が報告されています。このことは、地震の被害の大きさは、地震そのものの大きさや震源からの距離とともに、その土地がもつ特性に大きく依存していることを示しています。日本海東縁変動帯では、この20年間ほど地震活動が活発化しています。さらに、胆振東部地震や北海道北部、能登半島でも地震が発生しており、日本列島全体で地震活動が活発化しています。来るべき地震に備えて、自分が居住している土地の成り立ちを知っておくことが重要であることを解説します。



講演者のプロフィール

宮下純夫 (みやした すみお)

北海道総合地質学研究センター理事長、新潟大学名誉教授、元日本地質学会長



略歴

北海道江別市生まれ

1970年 北海道大学理学部地質鉱物学科卒業、1979年 同大学院博士課程修了

1984年 新潟大学理学部・自然科学研究科にて教育・研究に従事、北海道や太平洋、インド洋、オマーンを中心とした世界各地の過去及び現在の海洋地殻の研究に取り組む。

2018年、故郷北海道へUターン、江別市在住